



飯室学区自主防災 活動の取組

活動開始

- 2014年8月20日の豪雨災害から本格的な災害に備えて何をするか具体的に考えるようになった
- 災害時に避難しない人が多いので避難を促すにはどうするかと思い、行動開始
- 最初は各地域の会長を集めて周知、わがまち防災マップも各地区で作成する
- 避難の呼びかけにも反応が乏しく、危機感が末端住民に伝わらないことを実感する
- 出前出張講座を開始する

活動のようす

- いきいきサロンを中心に、社協の介護予防教室とタイアップして**出前講座実施**
- ハザードマップ、気象情報サイト「今後の雨」や「キキクル」で自ら自分のいる場所の危険度を確認する
- 近くて安全な避難場所を確認しておく（指定避難所にこだわらない）

逃げろと言われて逃げるのではなく、逃げなければならぬと自ら確認して逃げる

小学校での防災授業に参加し子どもに同様の話をする→親に伝わる

自分の住んでいる
場所(その周辺)が
過去災害にあった事
実を認識してもらう

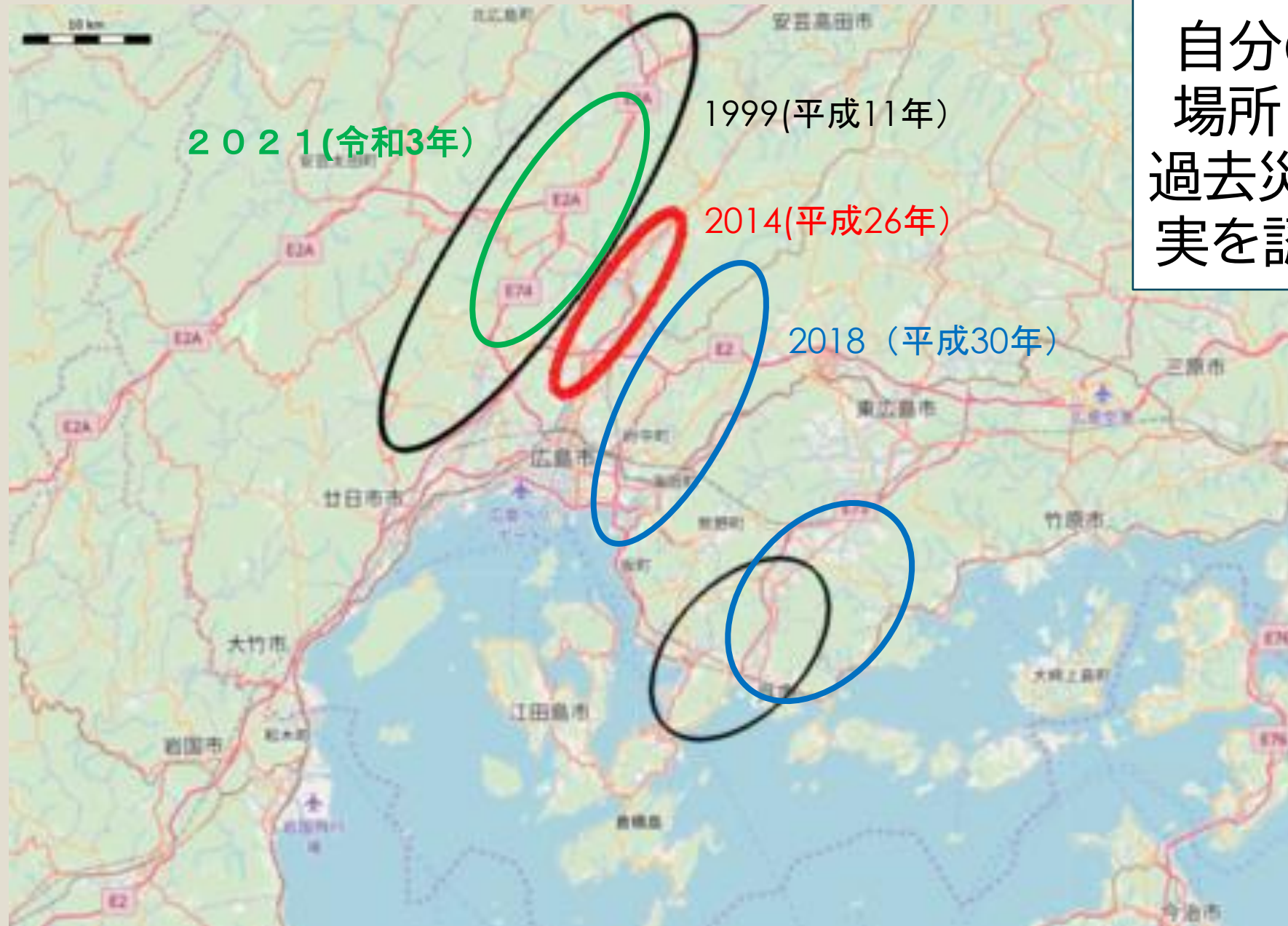
広島での災害時降雨量の変化

1999(H11)6/29 連続降雨量 199.5mm(大野)271mm
時間最大雨量 81mm **飯室も被災**

2014(H26)8/20 連続降雨量 257mm(三入)
時間最大雨量 101mm(三入) **短時間で多量の雨**

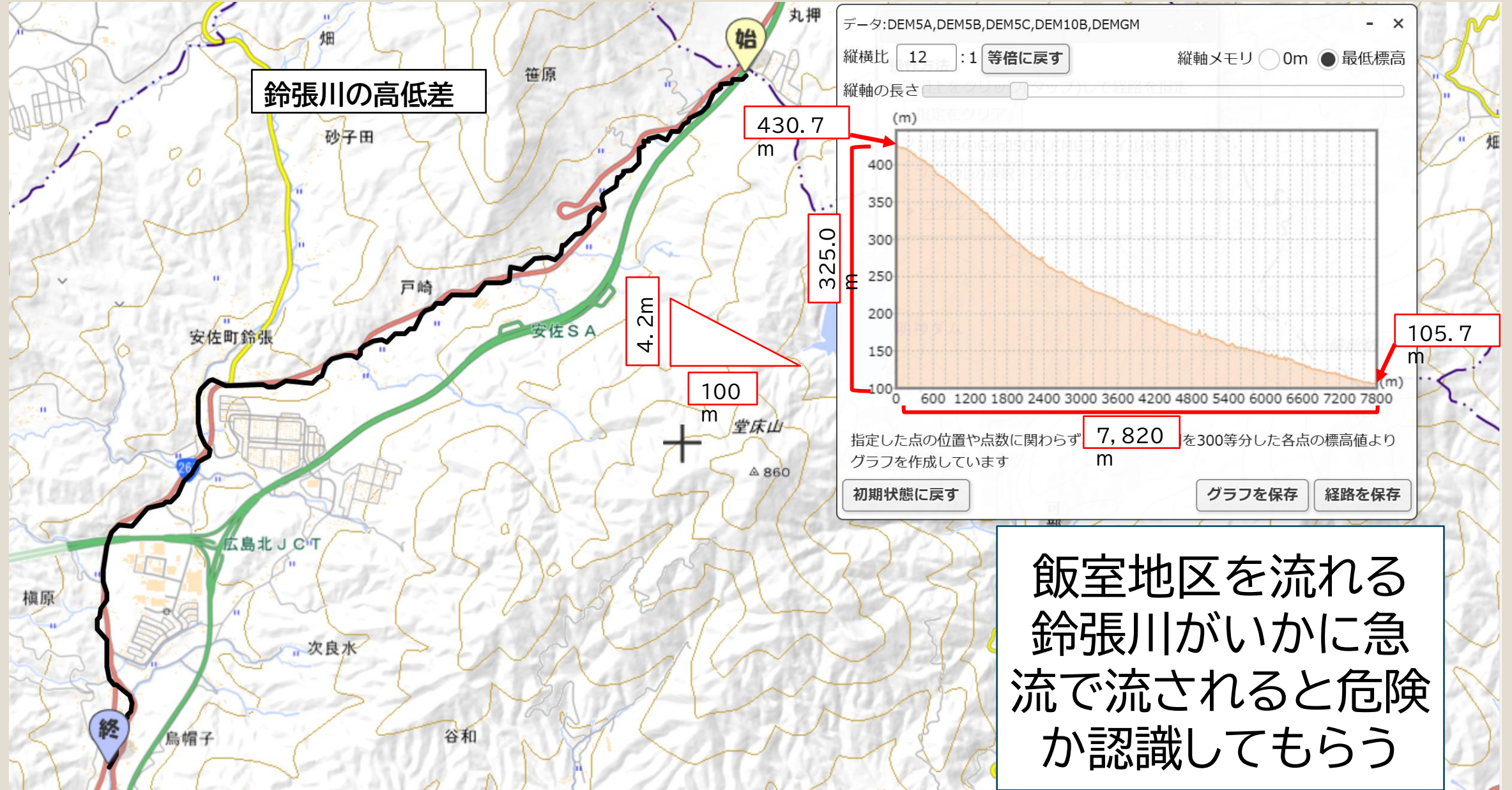
2018(H30)7/6 連続降雨量 426.5mm(広島)
時間最大雨量 59mm(呉)86mm(山口)
長期間の連続降雨 1999年の2.1倍

2021(R3)8/12, 13 連続降雨量 793mm(安佐南区山本)8/11~25
時間最大雨量 75mm(安芸高田市土師)
鈴張川護岸が崩れる災害、土砂災害

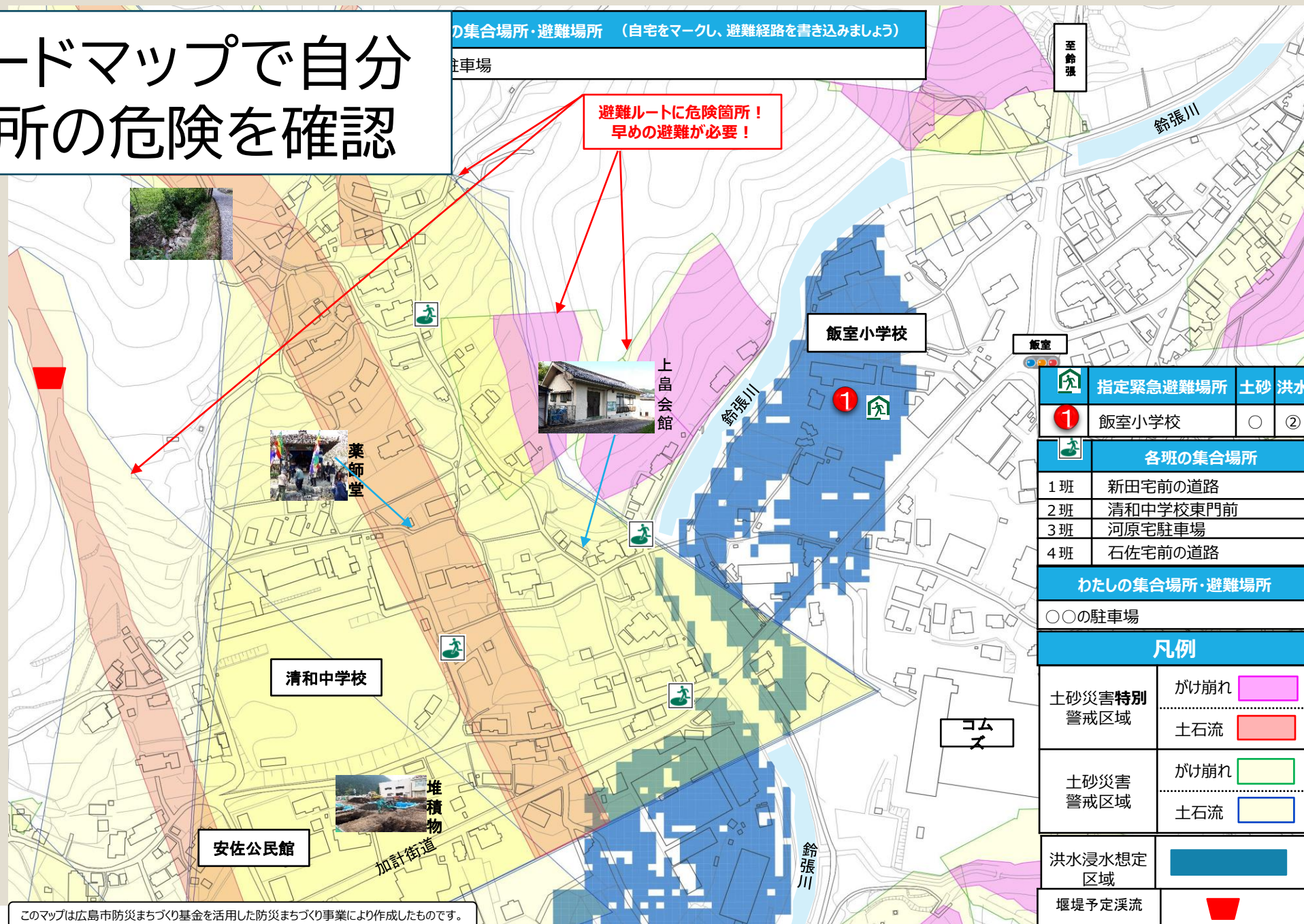


自分の住んでいる
場所(その周辺)が
過去災害にあった事
実を認識してもらう

鈴張川で災害が多い理由？

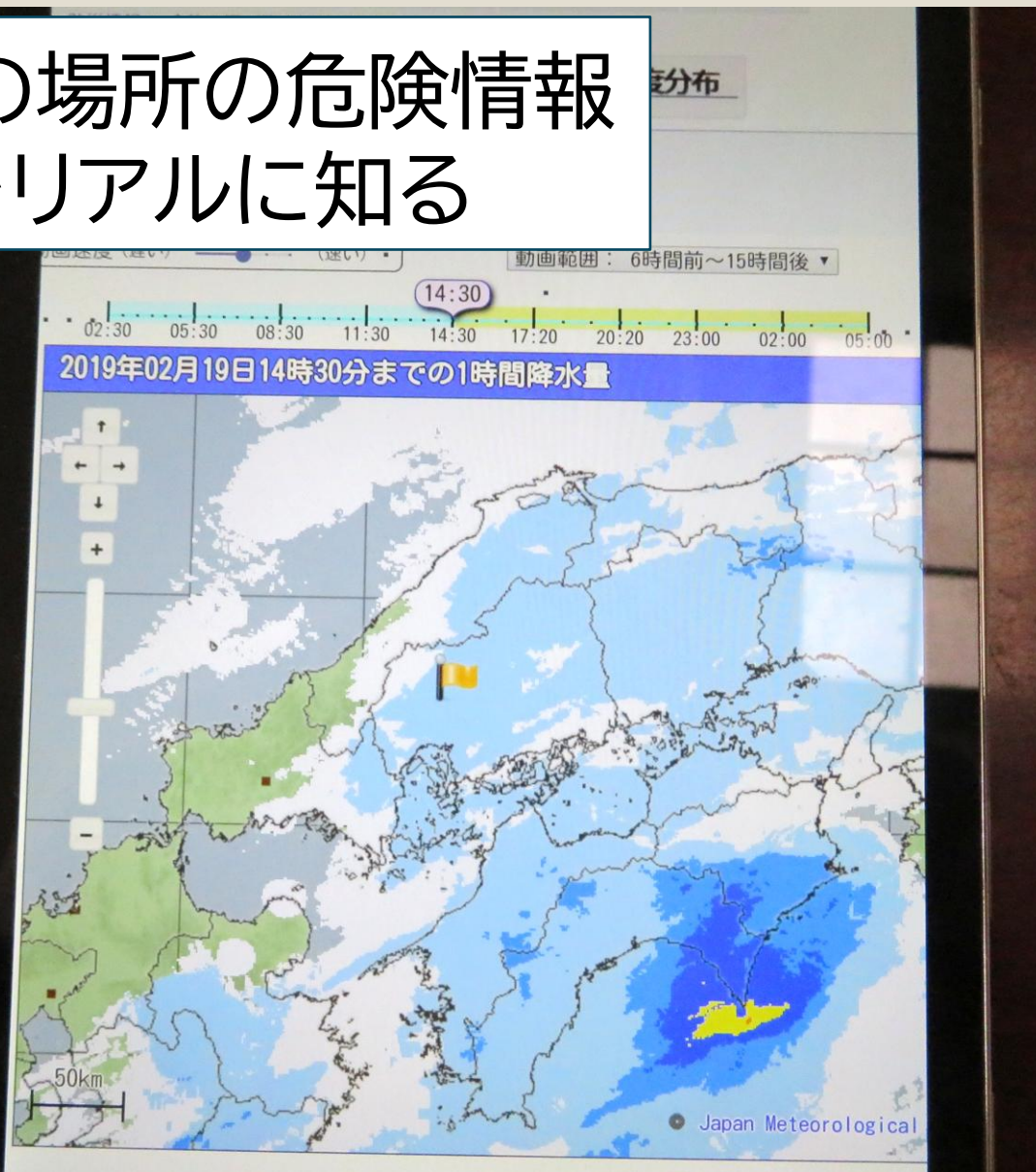


ハザードマップで自分の場所の危険を確認



自分の住んでいるところに今後どれだけ雨が降るか予想

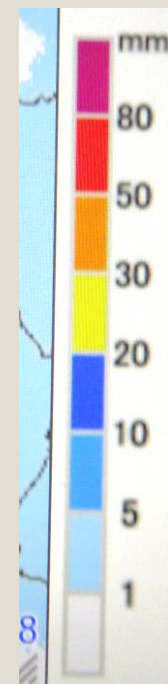
自宅の場所の危険情報をリアルに知る



地図を拡大すれば自分の住んでいるところがわかります。

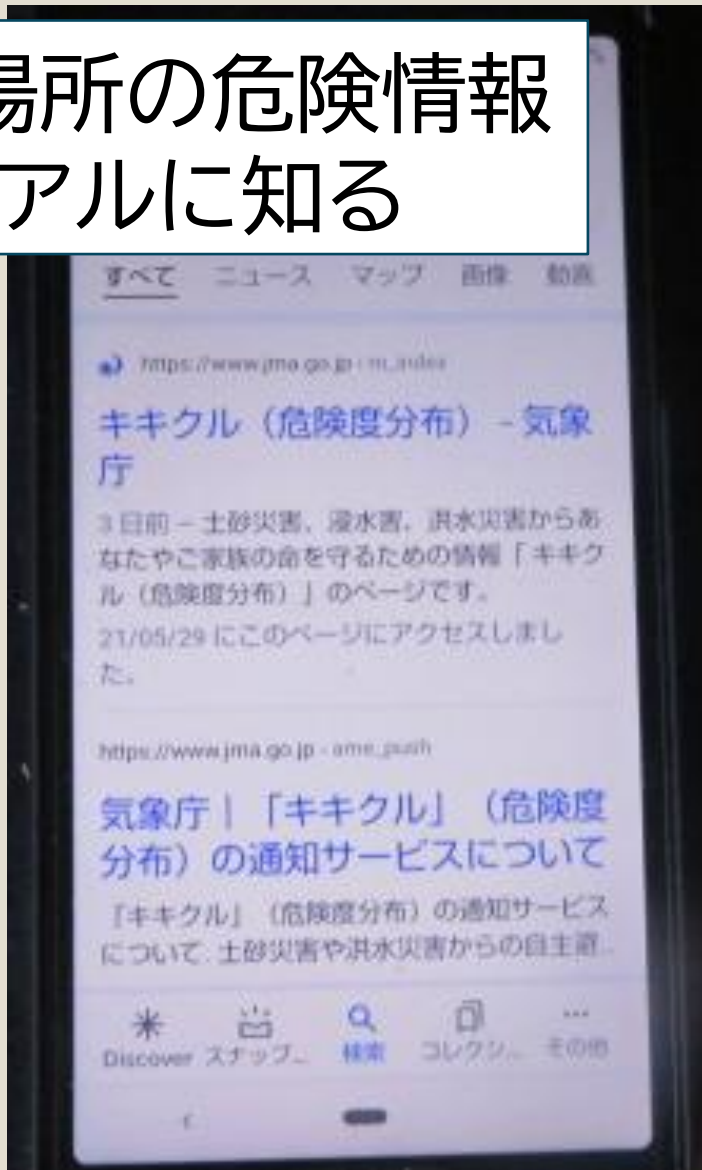
雨雲の情報は「6時間前から15時間後」まで確認できます。

雨雲表示の色で雨の強度がわかります。



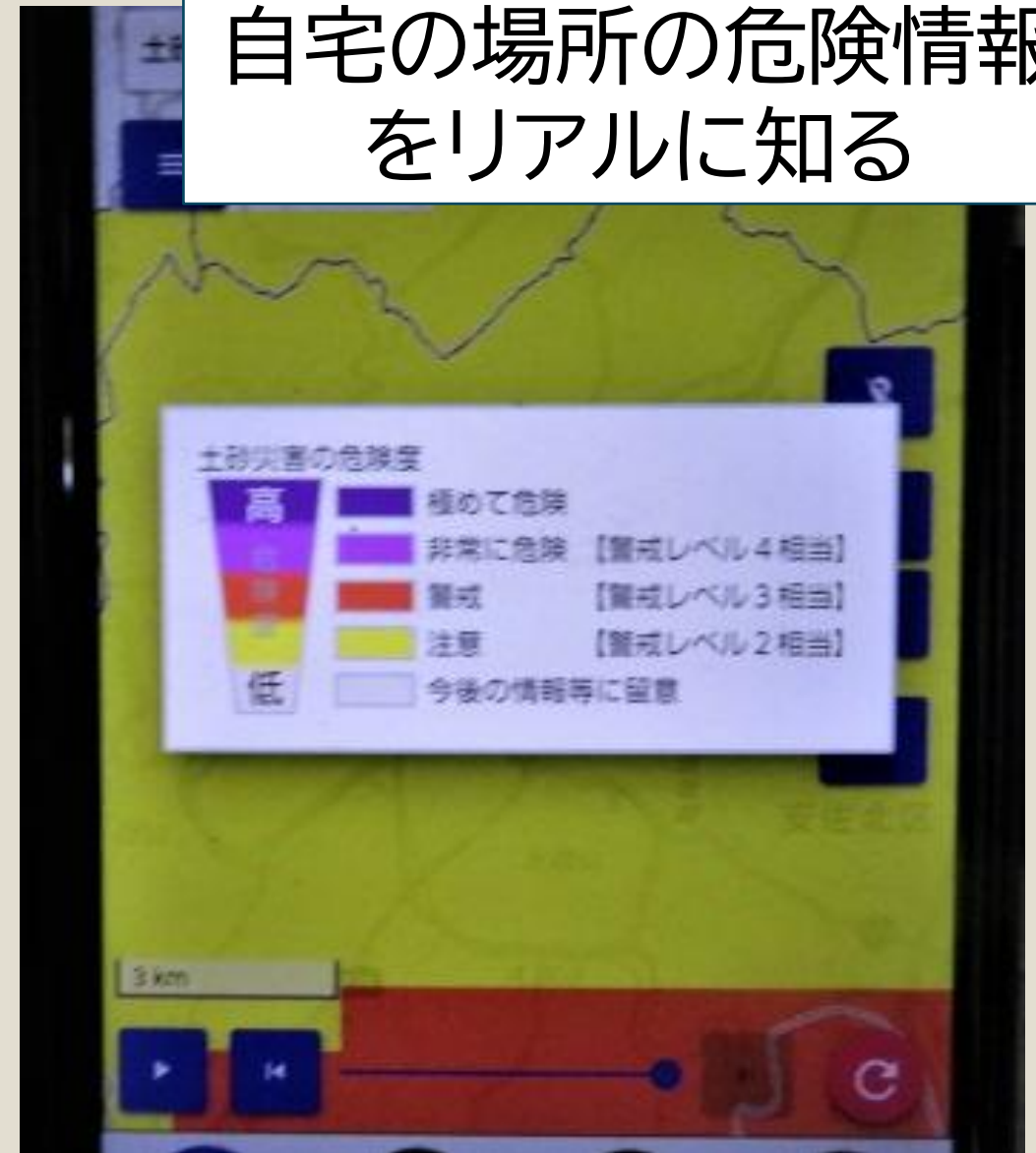
キキクル（危険度分布） 雨量の予報から災害危険度を判定

自宅の場所の危険情報をリアルに知る





自宅の場所の危険情報
をリアルに知る



どこへ逃げるか？

自分の身を守る避難場所
は自分で決める

- 避難場所＝飯室小学校？（小学校は遠い、
- とりあえず様子を見る・・・近くの安全な場所を選んでおく
- 車で避難（コムズ駐車場は災害時車中一時避難場所に認定）
- 家を離れて避難する場合「水・食料等」確保して（3日分）
- 近所に声をかけてから
- 黄色いタオル？かけ忘れ、あいまいな情報。避難したか確認できない
- 安否確認が搜索活動に大きな影響（安否確認システム導入）
災害時伝言ダイヤル「171」の使用検討
- 介護施設「楽々苑」と避難指示発出時に避難用支援者やそれに準ずる方が避難できる協定書を独自に結ぶ（洪水災害時は飯室小学校の3階へ避難することになっている）

飯室小4年生の防災授業に参加

- 次世代の地域を担う子供たちに自主防災活動の状況やこの地域の災害における特性などを伝える。(鈴張川の急流性、上畠地区の砂防ダムの必要性などや備蓄倉庫の内容について)
- 子供たちから彼ら目線での指摘や要望などを聞き、より災害に備えるための資料とする。(要支援者の避難場所は彼らからの後押しで成立しました)



楽しく学ぶ防災（安佐町防災フェア）

- 。昨年から地元のスーパー「コムズ」と共催して（自主防災会連合会がいむろエルモに参画→いむろエルモにコムズが連携会員として参加→いむろエルモの事業として防災フェアを共催）
- 。飯室小学校の防災授業のまとめ発表
- 。勝丸恭子さんと呼んで講演会





地域で防災訓練（広島市の補助金あり）



今後の課題

- 地域住民への防災意識(土砂、洪水災害だけではなく地震災害への備え、火災への対策など)を忘れないよう毎年周知活動していくこと。
- 次世代の広報活動を実施してくれる人材養成
- 避難所の快適さ、利便性の追求(トイレ事情、寝床、ペット同伴避難)